



FIG株式会社（証券コード：4392）

個人投資家向けWEBセミナー ご説明資料

もっとワクワクして
未来がある。

01 | 会社紹介



会社名	FIG株式会社 (Future Innovation Group, Inc.)
設立日	2018年7月2日 ※グループ前身のモバイルクリエイイト設立は2002年
代表者	代表取締役社長 村井 雄司
所在地	大分県大分市東大道二丁目5番60号
資本金	30億円
従業員数	734名 (2025年12月末現在連結)





モバイルクリエイイト

IoT・ペイメント

- ✓ IP無線システム
- ✓ 動態管理システム
- ✓ タクシー配車・バス運行管理
- ✓ ペイメントサービス



REALIZE

ロボット・オートメーション

- ✓ 半導体・自動車関連装置
- ✓ 金型・精密加工
- ✓ ロボット

SKTS ケイティーエス

IoT（スマートホテル向け）

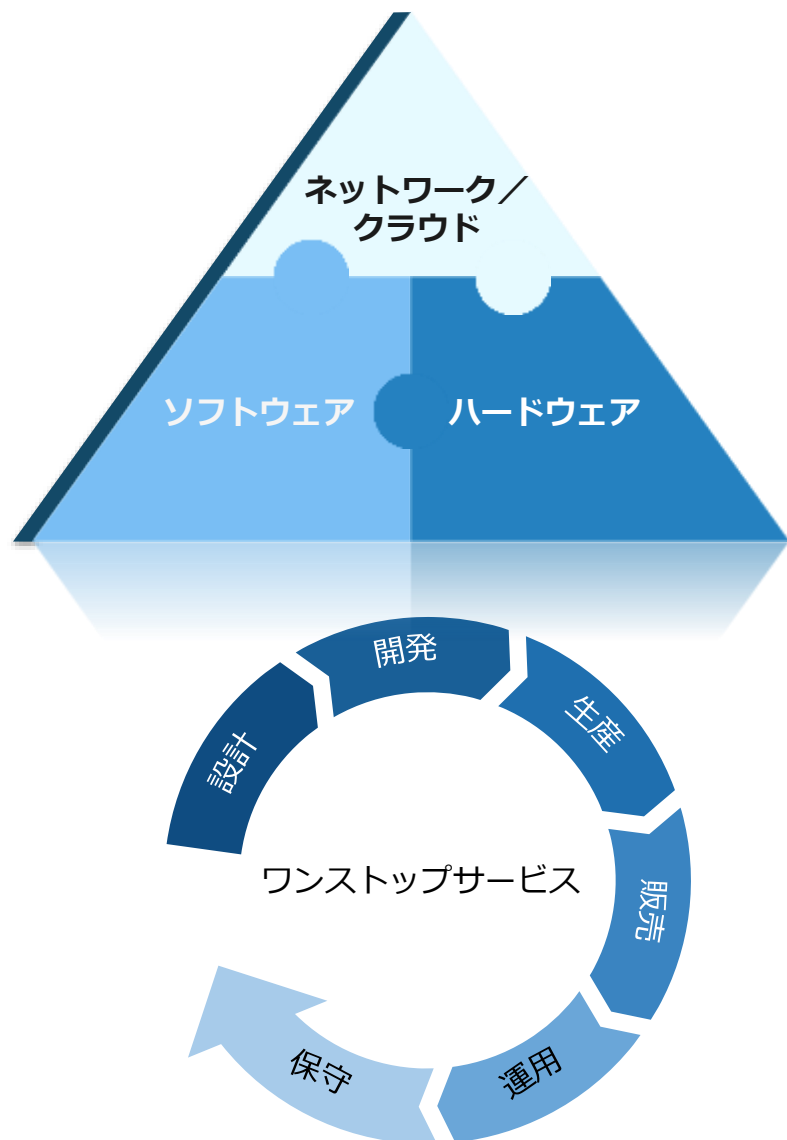
- ✓ マルチメディアシステム
- ✓ IoT基板製造



その他のグループ会社



- ✓ 物流システム
- ✓ ドローン
- ✓ 戦略開発基盤（グループ開発特化）



ソフトウェア

ハードウェア

ネットワーク/
クラウド

ソフトウェア・ハードウェア・ネットワーク/クラウドを横断的に自社で開発・運用できる技術基盤と、現場実装を通じたワンストップ提供力が強み。

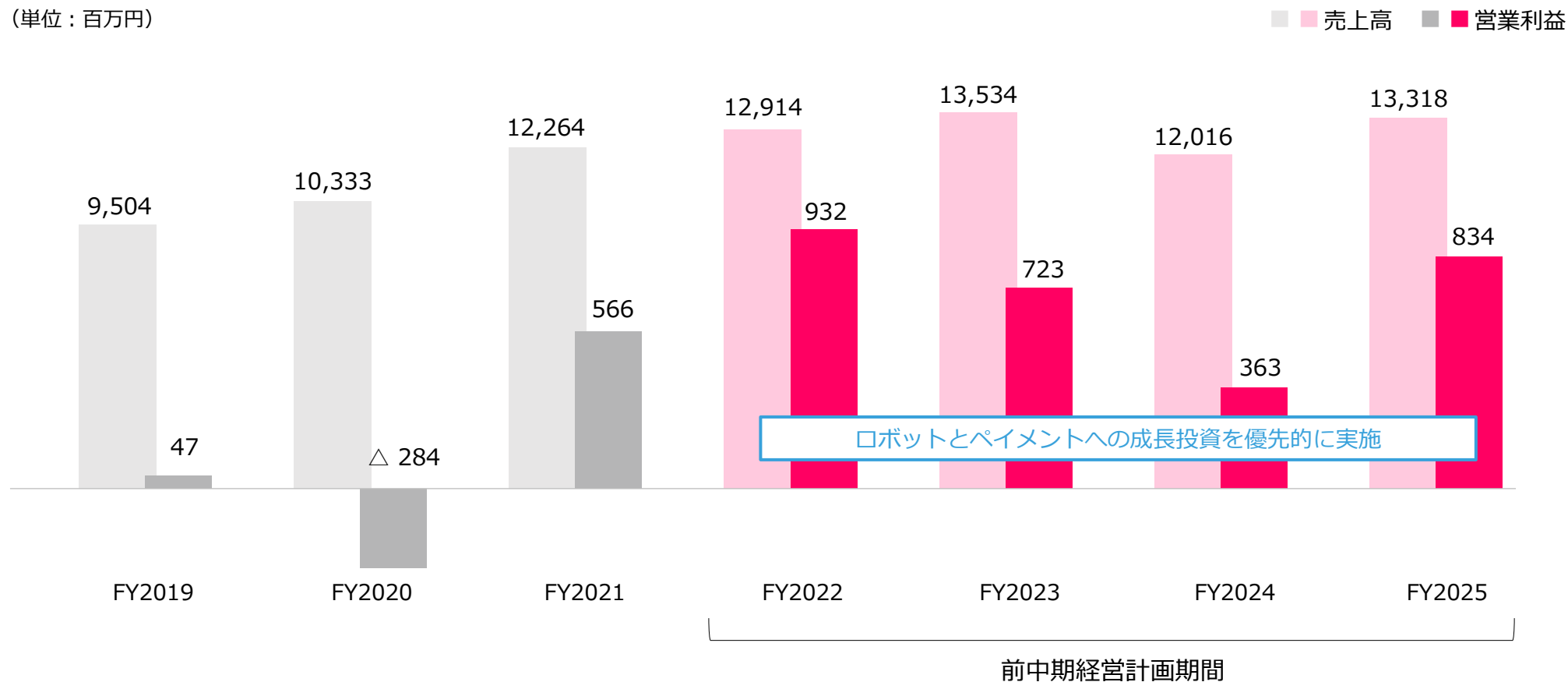
ソフトウェアとハードウェアを一体で設計・開発することで、用途や現場特性に最適化されたハードウェアを提供するとともに、ネットワーク/クラウド基盤により多様なサービスを安全かつ安定的に運用。

この3つの技術領域をカバーすることで、IoT・ペイメントといったサービス領域にとどまらず、ハードウェアであるロボット開発や上位システムとの連携など、オートメーション領域の事業拡大が可能。

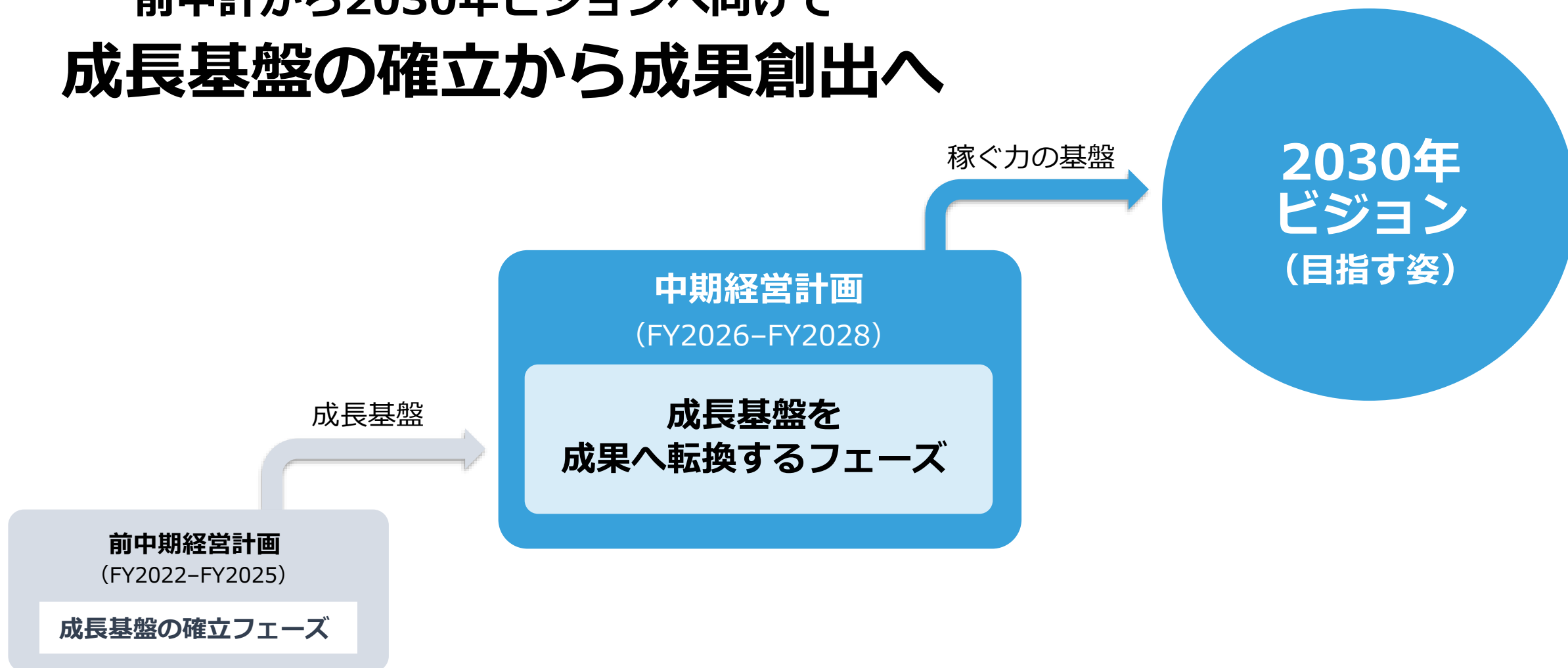
02 | 新中期経営計画（2026年-2028年）と 2026年12月期第2四半期決算概要

成長投資を継続しつつ、計画前と比較して収益水準は向上

（単位：百万円）



前中計から2030年ビジョンへ向けて 成長基盤の確立から成果創出へ



労働人口減少などの社会課題に対し、複合技術を組み合わせたソリューションを通じ、 持続的な「稼ぐ力」を強化（2028年にROE10%）



社会価値

製造現場・物流倉庫における人手作業を自動化し、省人化、さらには無人化を通じて生産性を向上

経済価値

ロボットを中核にオートメーション領域を拡大し、成長基盤を収益へ転換

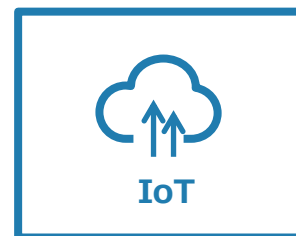


社会価値

運営負荷を軽減する決済・精算の自動化と、利用者の利便性を高める決済インフラの提供

経済価値

交通分野を起点に、自治体・ホテル・他業種への展開を加速し、キャッシュレス取扱高と収益機会を拡大



社会価値

データ活用による業務可視化・運営最適化に安全性向上、利用者の快適な移動や宿泊体験など

経済価値

顧客の成果創出に直結する付加価値型サービス開発を強化し、サブスク売上高を拡大

売上総利益・営業利益・ROEを「稼ぐ力」の主要KPIとし、
事業成長と資本効率の両立を図る。

前中計の振り返りを踏まえ、次の成長ステージに向けて経営目標を再設計。

	FY2025 実績	中期経営計画KPI	
		FY2026(予想)	FY2028
売上高	133億円	140億円	170億円
売上総利益	41億円	43億円	53億円
営業利益	8.3億円	10億円	15億円
ROE	5.9%	7.4%	10.0%
ROIC	4.9%	5.7%	8.0%

※FY2025のROE実績は、特別利益の影響（税引後）を除いた試算値

連結損益計算書

（単位：百万円）

	FY2025 2Q実績	FY2026 2Q実績	前年同期比	通期計画	進捗率
売上高	6,608	7,516	+ 13.7%	14,000	53.7%
売上総利益	2,013	2,164	+ 7.5%	4,300	50.3%
販管費	1,621	1,581	△2.4%	—	—
営業利益	392	582	+ 48.5%	1,000	58.2%
経常利益	383	577	+ 50.8%	1,000	57.8%
最終利益	330	365	+10.6%	680	53.7%

※最終利益＝親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益

— ロボットを中核としたオートメーション領域の事業拡大 —

空間理解を基盤に、環境変化に応じて判断・行動するフィジカルAI、自律型移動ロボット（AMR）

2028年目標
ロボット関連売上

30 億円



市場環境と成長機会

市場拡大

AGV／AMRの世界出荷台数は**2030年に138万台へ拡大***（2025年比 約4.8倍）
労働人口減少を背景に、国内でも自動化・無人化ニーズが拡大

技術力

SLAM技術による空間理解を基盤に、環境変化に応じて判断・行動する自律制御技術の開発（**フィジカルAI**）から、上位システム連携までワンストップで対応

営業基盤

自動車・半導体メーカーを中心とした大手製造業の顧客基盤を活かし、高度な自動化ソリューションを提供

製品（純国産ロボット）

柔軟なカスタマイズやアフターフォローに加え、地政学リスクを背景に純国産ロボットへのニーズが拡大

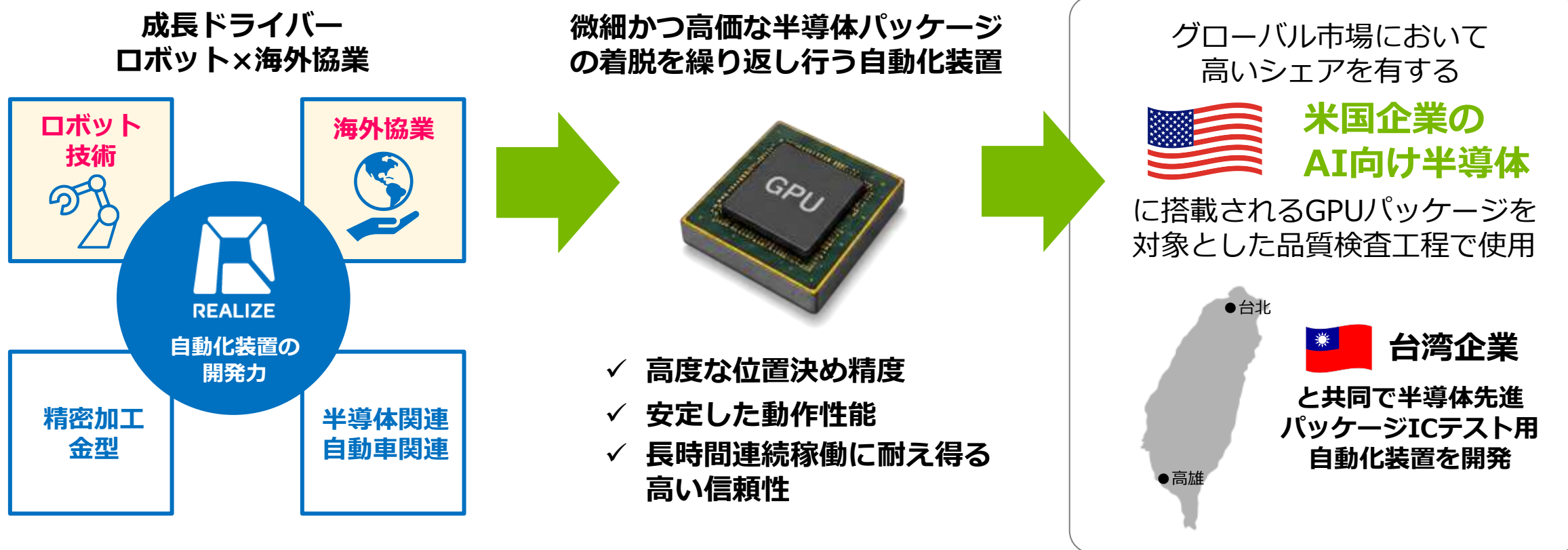
M&A

資本業務提携先の匠社との連携やM&Aなどで、成長スピードを高める
（※詳細は次ページ）

* 出所：矢野経済研究所「2025年版 世界AGV／AMR市場の現状と将来展望」



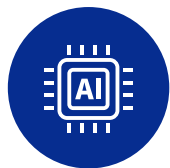
REALIZEの新規事業への挑戦（最先端AI半導体向け）



ロボットを成長ドライバーとし、海外協業と既存事業の強みを
掛け合わせ先端半導体市場で新たな価値を創出

装置メーカーから、 自動化ソリューションメーカーへ 中長期的な成長に向けた取り組み

成長ドライバー



AI・半導体

×



ロボティクス

×



自動化市場
(工場・倉庫)

中長期の取り組みステップ

1



技術開発の
強化

高精度な制御、
自動化技術の
開発・強化

2



ソリュー
ション拡充

多様な業界・工程
に対応する
ソリューションラ
インナップを拡充

3



パートナー
連携強化

海外・国内パー
トナーとの連携
を強化し、シナ
ジーを創出

4



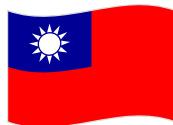
持続的な
成果創出

収益構造の強化と
企業価値の向上を
実現

最近の取り組み事例

品質評価工程で使用するAI半導体向けGPUパッケージの自動着脱装置を台湾企業と共同開発。

開発完了



先端半導体工程への取り組みの
一環として、台湾企業と連携し
た自動化ソリューション開発。



現在



台湾工場において、量産工程で
の活用を視野に試験運用中。
(GPUパッケージの自動着脱装
置)



今後の展開

試験結果の検証・改善を重ね、量産工程での活用を目
指すとともに、更なる自動化ソリューションと横展開
を推進。

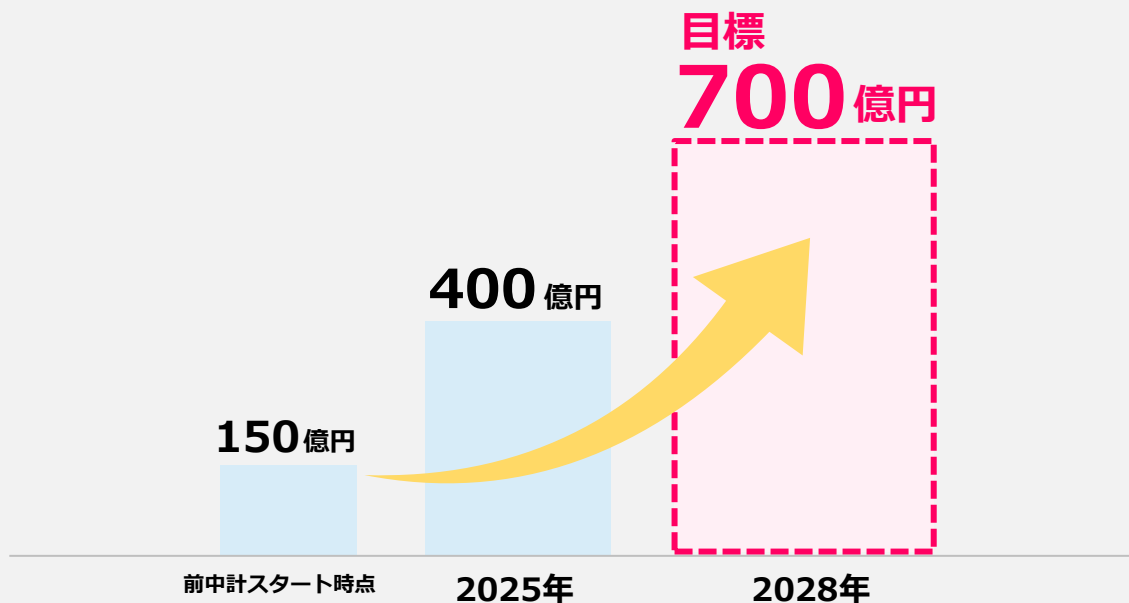


本案件で培った技術を活用した自動着脱装置
を国内メーカーからも受注済

ペイメントの事業領域を拡大

公共交通で培ったペイメント基盤を起点に、自治体・ホテル・他業種へとサービス提供領域を拡大する。

目標：キャッシュレス取扱高



※キャッシュレス取扱高には、決済に加え、ICカードを活用した運賃精算額を含む。

市場環境

政府はキャッシュレス決済比率80%（2030年に65%）を目標に掲げており、市場は中長期的に拡大
2025年のキャッシュレス決済比率は、58.0%（国内指標）と堅調に上昇

※経済産業省ウェブサイトより一部抜粋

現在の取り組み案件



主力のタクシー決済は好調

新規導入・リプレイス案件ともに堅調に推移。
電子タクシーチケットなどの新サービス展開も推進中。



自治体導入は拡大中

自治体向け導入は順調に拡大。
製品ラインナップの拡充や機能強化、カード会社等との連携を推進。



バリューデザイン社との連携

独自Pay（ハウス電子マネー）との連携により、顧客基盤を拡大。
同社の全国約13万店舗に及ぶ導入実績を活用し、決済サービスの利用シーン拡張を推進。



ホテル市場の開拓に着手

ホテル管理システム（PMS）「ホテルスマート」で急成長中のエイジ社との協業により、ホテル向け決済サービスの展開準備中。

ホテル管理システム「HOTEL SMART」と連携した マルチ決済端末「PT-630」を東京都秋葉原のホテルへ初導入



ホテル管理システム 「HOTEL SMART」

チェーンのホテルからグランピングや戸建てまで全国4,500施設、75,000室以上の導入実績あり



マルチ決済端末 「PT-630」

社外POSシステムとの連携を可能にするAPI機能を搭載しており、各種業務システムと連携したスムーズな決済運用を実現

決済ベンダーの統一化

運用負荷軽減 コスト削減 サービス品質の向上

XXX（エイジィ）社との
業務連携を通じて
**全国の宿泊施設への
導入拡大を推進**



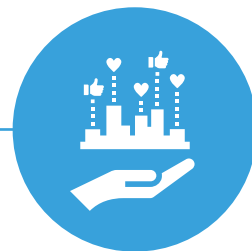
— 基盤事業であるIoTにおける新サービス創出（データ・AIの活用） —

公共交通・物流・宿泊分野を中心に、顧客のビジネス成果に貢献し、ともに成長を実現する。



サービス

交通・物流・宿泊分野を中心に、顧客のビジネス成果に貢献し、ともに成長を実現する付加価値型サービスを推進



社会課題

労働力不足や持続可能な地域交通など、社会課題の解決に資するソリューションを展開



2028年目標

サブスク売上高の拡大を推進

- ・ **52億円突破を目指す**
- ・ **公共交通や物流の新サービス開発**
- ・ **ホテル向けサブスク売上の回復**

Mobile Create
デジタルサイネージ
「iSIGN」

多様なラインナップでバス・鉄道事業者向け導入を拡大中

番号	経由	行先	時刻
1	先発 [Z]	大分空港 秋27分	
のりば	次発 [K]	大分空港	あと 30分
2	先発 [AS70]	国東	あと 5分
のりば	次発 [1480]	5号線	あと 11分
3番のりば	明野・パークプレイス方面		
3	先発 [E30]	パークプレイス	あと 7分
のりば	次発 [E70]	宮内ハイランド	あと 7分
3番のりば	元町・羽田・駅南方面		
3	先発 [F41]	元町・羽田	あと 23分
のりば	次発 [112]	古河町	あと 29分
4	先発 [H73]	佐伯	あと 5分
のりば	次発 [110]	佐伯	あと 5分
5	先発 [K60]	富士見が丘	あと 7分
のりば	次発 [L28]	大分駅	あと 14分
6	先発 [D20]	花高松	あと 2分
のりば	次発 [D81]	花高松	あと 3分
7	先発 [P23]	にじが丘・青葉台	あと 5分
のりば	次発	にじが丘・青葉台	あと 21分



iSIGNの4つの特徴



運行情報・広告
などを柔軟に配信可能



交通業界での豊富な導入実績



24時間のサポート体制
による安心運用



**設置環境に応じた
最適な製品ラインナップ**

事業者のニーズに合わせたハードウェア



地上機型
サイネージ



スマート
バス停



吊り下げ型
サイネージ



バス車内型
サイネージ

※写真はポータブルサイネージ

03 | 株主還元

2026年12月期の期末配当

2026年12月期の株主優待

毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主様を対象

10 円（予想）

15単元以上保有の株主様を対象に
保有株式数に応じて優待ポイントを進呈

FIGプレミアム優待倶楽部

5,000種類以上の優待商品からポイントと交換！

株主優待ポイント表

保有株式数	進呈ポイント数
1,500株～1,999株	5,000 point
2,000株～2,999株	8,000 point
3,000株～3,999株	15,000 point
4,000株～5,999株	20,000 point
6,000株～	40,000 point



※画像はイメージです

※ポイントは次年度へ繰り越す事が可能（最大2年間有効）

※ポイントの繰越には翌年12月末現在の株主名簿に前年度と同一の株主番号で記載されていることが条件



Future Innovation Group

【 連絡先 】 F I G株式会社 経営企画本部
【 住所 】 大分県大分市東大道二丁目5番60号
【 T E L 】 097－576－8730

本発表において提供される資料及び情報は、いわゆる「見通し情報(forward-looking statements)」を含みます。
これらは現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。